

☆目標

よく使われる「ことわざ」をおぼえよう！

★ことわざとは？

昔から伝えられてきた、生きていくうえで知恵や教訓などを短い言葉で表したものを、「ことわざ」といいます。

多くのことわざは、たとえ話(比喩表現)を使って表現されています。意味を考えるとときには、たとえ話が表す具体的な状況や場面を思い浮かべ、そこからどんな教訓を伝えようとしているのかを推理することによって、理解しやすくなります。

例「猿も木から落ちる」

【たとえ話】

木登りがじょうずな猿でも、ときには失敗して木から落ちてしまうことがある。

【意味】

その道にすべれた人でも、ときには失敗する可能性がある。

【使い方の例】

「猿も木から落ちる！昨日行われたフィギュアスケート世界大会で、羽生結弦選手がまさかの二回連続でのジャンプ失敗。結果は六位に終わりました。」

■次の①～⑤のことわざの意味を、【たとえ話】の説明をヒントにして、あじふようから適切な漢字を記号で答えなさい。

①犬も歩けば棒に当たる

【たとえ話】

安全な家の中で飼われている犬も、勝手に外を散歩して、人間に棒でたたかれてしまうことがある。

【意味】

() ()

②びんべりの背比べ

【たとえ話】

びんべも小さいへん、たいして大きさに差がないびんべりたちが、背比べをして「自分のほうが大きい」と言い合っている。

【意味】

() ()

③医者の不養生

【たとえ話】

他人には養生(健康にすくすく)をすすめる医者が、自分自身では健康に気をつけない生活をしている。

【意味】

() ()

④井の中の蛙、大海を知らず

【たとえ話】

小さな井戸の中にいる蛙(かえる)は、井戸の外に大きな海があることを知らない。

【意味】

() ()

⑤立つ鳥あとを濁さず

【たとえ話】

水鳥が飛び立ったあとの水面は、清らかなままで美しい。

【意味】

() ()

ア正しいとわかっている、自分では実行しないこと。
 イしなくてもよいことをして、とんだ災難にあつこと。
 ウ自分のせまい知識やもの見方がすべてだと思つて、世間知らずであること。
 エこれも同じく、特別にすべれたものがないないこと。
 オ去るときは、あとが見苦しくならないように、おむすこと。
 後始末をしつて、さきだつこと。

■同じような意味のことわざを線で結びなさい。

①のれんに腕押し

・弘法も筆の誤り

②論より証拠

・猫に小判

③馬の耳に念仏

・ぬかに釘

④河童の川流れ

・百聞は一見に如かず